

児童発達支援 図解実務教材 01

アセスメントシート の書き方

図解と3パターンの作成見本で学ぶ

児童発達支援 単独型事業所向け



はまなす行政書士事務所

2026年10月版

アセスメントシートの書き方

場面を読み 図でつかみ 文例から書き上げる



写真を見せると片付けが動き出した

「まだ」。悠さんは、作りかけのブロックを両手で囲みました。職員 B は次の活動の写真を見せ、近くに片付け箱を置きます。悠さんは写真を見た後、一つずつ箱に入れました。

この一場面には、明日の支援につながる情報があります。本書では、好きなこと、本人の表出、役立つ条件を読み取り、アセスメントシートへまとめます。

対象は児童発達支援の単独型事業所です。悠さん 4 歳 6 か月を扱う物語と、氏名・日付・数値・会話はすべて学習用の架空設定です。

02 場面の前後をたどる

書類に残すことは、現場の一場面から見つかります。登場する A は児童発達支援管理責任者、B・C は支援担当職員、S は言語聴覚士です。

見えていたのは遊びを続ける姿

B の最初のメモには「終了の声かけ後も遊んでいた」とありました。A は、ブロックを作っていた時の様子から聞きます。「色を選んで、見本を見ながら積んでいました」。好きな活動への関わり方も、悠さんを理解する情報になります。

動き出した前後をたどる

「写真を見せた後はどうでしたか」。B は、写真と箱を用意した順番を思い出しました。ここで記録するのは、職員が用意した条件と悠さんの行動です。写真が役立った可能性を考え、次の観察で確かめることも決めます。

短いメモが次の準備を教える

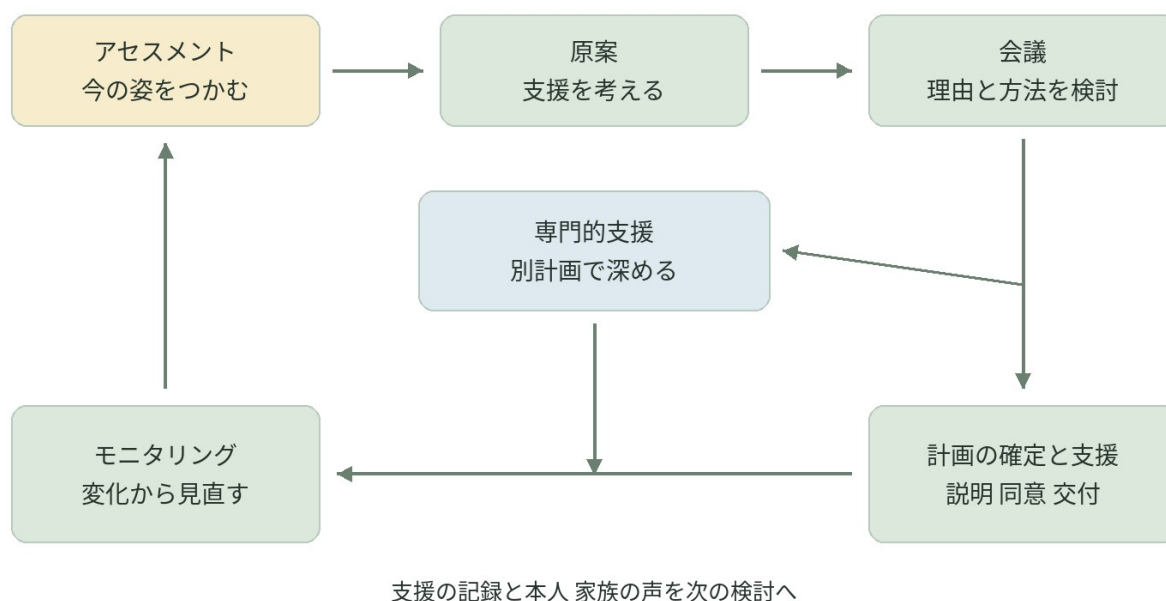
まとめは「好きな遊びの終了時、写真と箱が移行の手がかりになった可能性。次回も同じ条件で確認」となりました。この一文があれば、次の職員は何を用意し、何を見るかを選べます。記録を書く意味が、翌日の支援に表れます。

書く前に持っておく視点

国のガイドラインでは、本人の発達と暮らしを幅広く捉え、家族や生活の場も考慮して支援を検討します。本書では、その視点を「本人の姿と役立つ条件を一組で残す」という書き方に生かします。

03 この書類が支援につながる場所

五つの書類は、本人に合う支援を続けるために使います。黄色の箇所は、この冊子で特に学ぶ場所です。専門的支援は、全体の計画と関連付けた別計画で進めます。



読む順番を選ぶ

初めて書く方は4～6頁で考え方と聞き方をつかみ、7～12頁で3パターンの作成見本を比べましょう。13～15頁は文章と判断の実践、16～17頁は演習です。18頁で自分の事例を書き、19～20頁で手続と根拠を確認できます。

架空例の流れは、7月2日・3日の面接と観察、7月6日の原案検討、7月7日の説明・文書同意・交付、7月9日の支援開始です。9月29日に見直しを行い、更新へつなげます。

04 面談の前に準備する

アセスメントは、児童発達支援管理責任者を中心にまとめます。職員の観察や専門職の所見を集め、それぞれの情報源を確かめます。本人と家族が大切にしていることを軸に、計画へ渡す要点を選びましょう。

最初の10分で、困りごとの背景を知る

面談は、楽しく過ごせた場面から始めると、家族と支援の手がかりを共有しやすくなります。「最近、悠さんが楽しそうだったのはどんなときですか」と尋ね、その後に困った場面を一つ聞きます。直前の出来事、本人の行動、役立った助けを順に確かめます。

生活 園から帰った後は、どんな順番で過ごしますか。

強みと希望 好きな遊びは何ですか。本人は何を選びますか。

困る場面 直近の場면을、最初から教えていただけますか。

助けになる条件 落ち着いた場所や、伝わった声かけはありますか。

家族の負担 今の生活で、何が一番大変ですか。

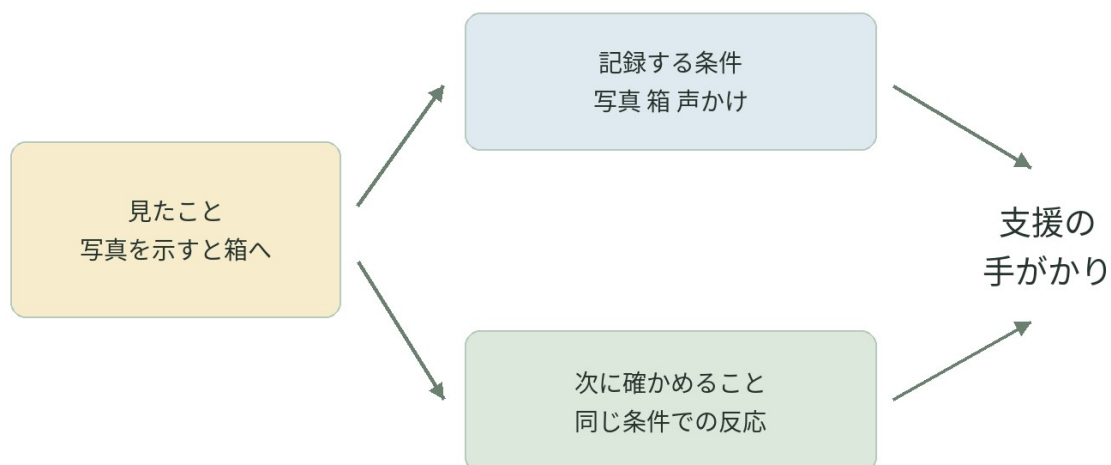
本人と保護者の希望を聞く

本人と保護者、それぞれに合う方法で面接します。目的を説明し、理解を得て進めましょう。本人には写真を選ぶ、遊びを見せてもらうなどの方法が使えます。母の話と悠さんの反応を別々に残すと、双方の希望が読める記録になります。

堺市の取扱いでは、やむを得ない場合を除き、契約後に計画作成の一連の業務を行います。見学時のメモは事前情報として生かし、契約後に本人と家族の現在の姿を確認します。

05 図から書き方をつかむ

国のガイドラインでは、本人の発達と暮らしを幅広く捉え、家族や生活の場も考慮して支援を検討します。本書では、その視点を「本人の姿と役立つ条件を一組で残す」という書き方に生かします。



図を記入する文章へ移す

情報は、保護者の話、本人の表出、直接観察、支援者の仮説に分けます。この順番にすると、読み手が判断の根拠を追えます。仮説には「可能性がある」と添え、次に何を確かめるかを書きましょう。

健康と安全の情報は、確認先と確認日まで残します。アレルギーや服薬について、家族から聞いたこと、医療機関の指示、追加確認が必要なことを区分します。緊急対応に必要な事項は速やかに共有し、その他の情報は支援に必要な範囲で扱います。

06 会話から記録の材料を集める

会話は、具体的な生活場면을聞くところから始めます。次の例では、役立っていることを共有し、その条件を記録の材料にします。

A 最近、楽しく過ごせたのはどんなときですか。

母 ブロックを作って、見せに来てくれるときです。

A そのとき、どんなふうに声をかけていますか。

母 一つずつ聞くと、指をさして教えてくれます。

この聞き方で分かること

好きなことと、伝わりやすい関わり方が分かります。続けて困った場面を一つ聞くと、得意な条件を支援に使えるか考えられます。

本人の表出も聞き取りの一部にする

悠さんは、単語や指さし、写真の選択で希望を示します。本人が実際に示した方法と場面を記し、家族の話と合わせて理解します。挿絵のカード選択も、この架空例を理解するための表現です。

07 作成見本 1 悠さん 生活と本人の意思

完成例は、7月1日の契約後、7月2日・3日に本人と母へ面接し、遊びを観察した設定です。児童発達支援管理責任者 A が、情報の出所を確かめてまとめています。

情報源と方法 7/2 母との面談 30 分、本人と写真選択・遊び 15 分。7/2・7/3 の遊び場面を職員 B・C が観察。園の直接確認は未実施。

本人の希望・選好 ブロックと車の写真からブロックを選んだ。終了時に「まだ」と発言。大きな音が重なる場面では耳をふさぎ、静かな机を指さした。

保護者の希望 困ったときに、泣く以外の方法でも伝えられるようになってほしい。園の活動に安心して参加できる方法を一緒に考えたい。

生活と環境 母によると園は週5日、朝は着替え後に食事。夕方は疲れが出やすい。家庭ではブロックから入浴への移行に時間がかかる。園の詳しい支援方法は、同意を得て確認予定。

強み・関心 ブロックの色を選び、見本を見ながら積める。よく知る大人の一つずつの声かけには反応しやすい。好きな物を共有しようと見せる場面がある。

健康・安全の確認 母への確認では現在の服薬・食物アレルギーの申告なし。確認日を記載し、変化時に連絡を依頼。医療指示の提出なし。緊急連絡先は契約時の連絡票で管理。

この例の読みどころは、本人の行動をそのまま残していることです。「耳をふさぎ、静かな机を指さした」と書けば、音と場所の調整を検討できます。気持ちについては、本人の表出と追加観察を手がかりに丁寧に確かめます。

08 作成見本 1 悠さん 5 領域から支援へ

5 領域は、暮らしを幅広く見るための視点です。悠さんの片付け場面にも、見通し、音、伝え方、大人との関係が関わります。一つの場면을各視点から見ると、環境を整える方法が増えます。

健康・生活 母によると夕方に疲れやすい。事業所では入室後に落ち着くまで約 5 分。来所前の睡眠や食事と参加の関係を継続確認する。

運動・感覚 大きな音が重なると耳をふさぐ。静かな机では遊びを続けた。運動面は今回の観察が少なく、遊具場面で確認予定。

認知・行動 口頭で終了を告げた 2 機会では遊びを継続。写真で予告し箱を示した 5 機会中 3 機会、2 分以内に次の活動場所へ移った。比較は条件ごとに行う。

言語・コミュニケーション 単語・指さしで希望を表す。物が取れない等の 6 機会中 2 機会、見本を 1 回示すと、ことば又は指さしで援助を求めた。

人間関係・社会性 なじみの大人に作品を見せる。初対面の大人や同年齢児とのやり取りは観察不足。安心できる相手を起点に広げる。

まとめの記入例

悠さんは、見通しがあると参加しやすく、単語や指さしで伝える強みがある。まず遊びの終了を写真で予告し、「まだ」「休みたい」を伝えられる選択肢を用意する。本人が選び、安心して参加できる場面を増やすことを優先する。

追加確認は、担当と期限を一組にします。A は母の同意を得て 7 月 10 日までに園の片付け方法を確認する。B は 2 週間、音・人数・時間帯を添えて観察する。このように書くと、情報の更新をチームで進められます。

09 作成見本2 芽衣さん 生活と本人の希望

芽衣さん 3歳8か月 本人 ID U02 学習用の架空記入例

作成と情報源 児童発達支援管理責任者 A が 5 月 8 日に作成。4 月 25 日契約。5 月 7 日に母と面接し、本人とは遊びと写真選択で面接。B・C が 5 月 7 日・8 日の来所と遊びを観察。園への直接確認は未実施。

本人の希望と表出 動物の写真からうさぎを選び、職員の手を引いて動物玩具の棚へ向かった。玄関で人の出入りが重なると母の腕をつかみ、静かな椅子の写真を指した。

保護者の希望 朝の支度と別れ際の負担を減らしたい。本人が困ったときに、身近な大人へ使いやすい方法で伝えられるようになってほしい。

暮らしと環境 母によると園は週 4 日。来所前の着替えに時間がかかる日がある。事業所では玄関の人の出入りが多い時間帯に母のそばで待つ姿がある。園での身支度の方法は同意を得て確認予定。

強みと関心 動物を選び、同じ職員と並べて遊ぶ。静かな場所で実物と写真を一つずつ示すと、選択や動作が出る場面がある。

健康と安全 5 月 7 日の母への確認では服薬・食物アレルギーの申告なし。体調、睡眠、食事の変化は連絡を依頼。緊急連絡先は契約時の連絡票で管理。

10 作成見本 2 芽衣さん 5 領域と支援のまとめ

芽衣さん 3 歳 8 か月 本人 ID U02 学習用の架空記入例

健康・生活 靴を脱いだ後、収納場所が分かる写真を示し、必要時は見本を 1 回示す条件では、5 機会中 2 機会に靴を棚へ入れた。睡眠と来所時の様子の関係は継続確認。

運動・感覚 人の出入りが重なる玄関では母の腕をつかむ。静かな場所へ移ると玩具に手を伸ばした。靴の扱いと立位の安定は追加観察する。

認知・行動 動物と車の写真から動物を選んだ。靴棚の写真と実物の位置がそろうと、靴を置く動作が出た。写真の理解は場面ごとに確認する。

言語・コミュニケーション 大人の手を引いて棚へ向かう。自然な援助機会 6 回中 2 回、職員の見本 1 回以内で「手伝って」の写真を指した。発語や理解語彙の全体像は未確認。

人間関係・社会性 なじみの職員と動物を並べる。初対面の大人との遊び、同年代の子どもとのやり取りは観察が少ない。

支援へ渡す要点 来所時は静かな待機位置を用意し、靴棚の写真と実物を対応させる。困ったときに写真や身ぶりで援助を求めたら応じる。休息と母との別れ方も本人の表出から調整する。

追加確認の担当と期限 A が母の同意を得て 5 月 22 日までに園の身支度方法を確認。B は支援開始後 2 週間、玄関の人数、予告、援助量、本人の表出を記録する。

11 作成見本3 陸さん 生活と本人の希望

陸さん 5歳5か月 本人 ID U03 学習用の架空記入例

作成と情報源 Aが8月5日に作成。8月3日契約。8月4日に父と面接し、本人とは遊びと短い会話で面接。B・Cが8月4日・5日の車遊びを観察。園の情報は父の説明による。

本人の希望と表出 車遊びを選び、「ぼくも」「まだ使う」と話した。友だちが同じ車に手を伸ばすと車を抱えた。職員が順番カードを示すと相手の手元を見た。

保護者の希望 友だちと遊びながら、自分の希望と困ったことを言葉で伝えてほしい。園の遊びに安心して参加できる方法を相談したい。

暮らしと環境 父によると園は週5日。帰宅後は車遊びを好む。園では玩具の順番で困る場面があるという。実際の人数、待ち時間、職員の対応は未確認。

強みと関心 車の特徴を話し、好きな遊びを大人へ提案する。大人と1対1では「貸して」という場面がある。次の番が見えると待てた場面がある。

健康と安全 8月4日の父への確認では服薬・食物アレルギーの申告なし。体調の変化は連絡を依頼。興奮時に急いで移動する姿があり、遊びの配置と動線を確認する。

12 作成見本3 陸さん5領域と支援のまとめ

陸さん5歳5か月 本人ID U03 学習用の架空記入例

健康・生活 活動を選び、職員と準備する。疲れた時間帯の遊び方と休息の取り方は、家庭の情報と合わせて確認する。

運動・感覚 車を動かし、道を組み立てる。声が重なりと大きな声で話す姿がある。静かな位置での反応と、玩具を扱う力加減を継続観察する。

認知・行動 順番カードを示し必要時に短い見本を1回示す条件で、5機会中2機会、次の番まで約30秒待った。待つ長さと本人の負担を一緒に記録する。

言語・コミュニケーション 大人との会話で希望を伝える。友だちとの自然な玩具要求6機会中2機会、見本1回以内で相手へ「貸して」と伝えた。大人と友だちの場面を分けて評価する。

人間関係・社会性 同じ遊びをしている友だちを見て近づく。玩具が重なりと抱える場面がある。相手の意思を確かめ、職員の仲介で交代する経験を作る。

支援へ渡す要点 本人が選んだ2人遊びで順番が見える形にする。「貸して」「あとで」などを伝える方法を用意し、職員が双方の表出へ応じる。待つ、別の玩具、休む選択も確保する。

追加確認の担当と期限 Aが父の同意を得て8月14日までに園の玩具場面を聞き取る。Bは支援開始後2週間、人数、待ち時間、職員の援助、本人と相手の反応を記録する。

13 観察メモから支援の要点へ

まず場面を一つ選ぶ

アセスメントのまとめは、一つの場면을詳しく書くことから作れます。以下のメモは、書き方を学ぶための追加の架空場面です。「終了と言うとブロックを持ったまま。次の写真を見せたら箱へ。母は家でも使いたい」と残っていました。

行動と条件を補う

メモを書いた職員に、いつ、誰が、どの順番に関わったかを確認します。確認できた内容だけを追記しましょう。ここでは「7月3日の遊び。Bが次の活動写真を見せ、箱を置いた。悠さんはブロックを箱に入れた」と確認できた設定です。

文章へ仕上げる

文例：7月3日の遊びで、終了の声かけ後、悠さんはブロックを持っていた。Bが次の活動写真を示し、箱を置くと、ブロックを箱に入れた。母は家庭でも写真を使ってみたいと話した。視覚的な予告と片付け場所が手がかりになった可能性がある。次回も同じ条件で反応を確認する。

この文章を書く理由

行動は見た順番、母の話は情報源、支援の仮説は可能性として書いています。この三つが読めると、原案で写真と箱を用意する理由を説明できます。追加確認を添えることで、次の観察も具体的になります。

自分の事例へ移す

好きな遊び、本人の行動、役立った助けを、自分の事例に置き換えます。時刻や回数が未確認なら、確認予定として残しましょう。短い記録でも、本人の強みと支援の条件が伝わることを目指します。

14 短いメモを伝える文章に整える

文例 1

書き始めのメモ 集団参加ができない。

支援につながる文章 朝の一斉活動で、声かけが重なると机から離れた。静かな位置で職員と写真を確認すると、3分間参加した。

文例 2

書き始めのメモ こだわりが強い。

支援につながる文章 ブロックを片付ける際、「まだ」と発言。完成品を写真に残し、次の遊びを選ぶと箱に入れた。

文例 3

書き始めのメモ 母の育て方に課題がある。

支援につながる文章 母は夕方の切替に負担を感じている。家庭で続けられる予告方法を一緒に試したいと希望している。

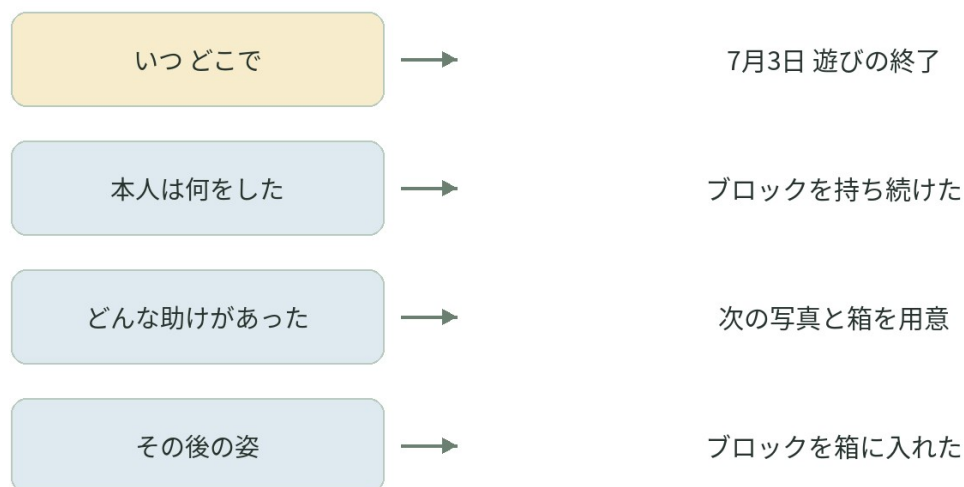
文例 4

書き始めのメモ 言葉が遅い。

支援につながる文章 要求時に単語と指さしを使用。困った場面では、大人の見本があると援助要求が出た。理解語彙等は未確認。

書き直した文章には、場面、本人の行動、役立った条件が入っています。この三つがあると、次の観察と支援の準備が選べます。

15 判断の手がかりを図で整理する



優先課題は、生活への影響と、本人・家族の希望から選びます。安全、毎日の負担、今ある強みも考慮しましょう。悠さんでは、活動の移行と援助要求を軸にすると、日々の生活に役立つ支援を組み立てやすくなります。

現場で確かめること

希望に違いがあるときは、願いの背景を聞きます。母の「最後まで座ってほしい」に「園で安心して過ごしてほしい」という思いがあれば、休憩を選び、短い活動から参加する案を共有できます。本人の休息の表出も計画に生かします。

計画へ渡す文は、「希望」「強みと条件」「優先する支援」「確認方法」の順で書きます。たとえば「ブロックを続けたい気持ちを大切にし、写真で終了を予告する。休憩も選べるようにし、移動と負担を確認する」とまとめます。

16 場面を読んで書いてみる

職員が「終わり」と伝えと、悠さんは机の下に入りました。母は「いつも逃げる」と話しました。

その後、職員が活動写真を並べると、車の写真を指して出てきました。四つの情報区分で、この場面を書いてみましょう。



答案を書く順番

場面の事実を選び、支援の条件を添え、次に行うことを決めます。自分の答案を書いたから、次頁の解答例と比べましょう。

17 解答例から書き方を確かめる

解答例

事実：終了の声かけの後、机の下に入った。活動写真を並べた後、車の写真を指し、机の下から出た。母の「いつも」という説明は、具体的な場面と頻度を次回確認する。

本人の表出：車の写真を指した。次の活動を選んだ可能性がある。机の下に入った理由は、音や予告などの条件を合わせて確認する。

仮説：次の活動が見えることや、自分で選べることで参加を助けている可能性がある。

追加確認：予告のタイミング、室内の音、次の活動を記録する。母には家庭の具体的な場面と、役立った声かけを尋ねる。

解説

「机の下に入った」と書くと、休息、音、見通しなど複数の支援案を考えられます。写真への指さしは、本人が実際に示した方法として大切に残します。

自分の答案では、見たことに下線、考えたことに丸を付けましょう。両方が一文に入っていたら、二文に分けると根拠が読みやすくなります。

自分の答案を読み返す

本人の姿と、周囲が用意した支援をそれぞれ指で示してみましょう。次にすることが読めれば、記録を支援へつなげられます。文例の数値や方法は、本人と場面に合わせて選びます。

18 自分の事例で一枚を作る

最初は、確認できた事実から書きます。情報源と日付、本人の希望、役立つ条件を添え、事業所の正式様式へ整理して転記します。

本人 ID／記録日／作成者

本人の好きなこと・希望・拒否の表出

保護者の希望／生活で負担のある場面

直接観察した場面と条件／情報源

5 領域の強み・難しさ／未確認事項

支援の仮説／まず整える環境

優先する課題と選んだ理由

追加確認の担当・期限／計画に渡す要点

19 実務で必要な手続を確認する

面接と作成の担当

児童発達支援管理責任者が中心となり、本人と通所給付決定保護者へ目的を説明して面接を行います。年齢や発達に合う意思確認を取り入れ、情報源と確認日を残します。

契約後の情報を確認する

堺市では、やむを得ない場合を除き、利用契約後に計画作成の一連の業務を行います。契約前の見学情報も生かし、現在の姿を確かめます。

記録の扱いを決める

計画の根拠がたどれる形で管理します。共有は支援に必要な範囲で行い、説明、同意等の必要な手続と閲覧権限を確認します。保存の期間は指定権者の条例・通知も照合します。

言葉の意味を確かめる

アセスメント 本人の力、環境、暮らしと希望を確かめ、支援を考えること。

仮説 観察から考えた、次に確かめる見立て。

計画期間、目標数値、教材の配置、会議の進行時間など、本書の架空例の設定は、本人と事業所の状況に合わせて調整します。

20 完成を確かめ根拠資料へ進む

- ☐ 本人と保護者に目的を説明した。
- ☐ 本人に合う意思確認を行った。
- ☐ 情報源・日付・条件を記載した。
- ☐ 5 領域を見渡した。
- ☐ 強みと環境調整を含めた。
- ☐ 優先課題に理由がある。
- ☐ 追加確認の担当・期限が明確。

参照した国と自治体の資料

指定通所支援の運営基準

第 27 条：計画作成・モニタリング／第 54 条：記録保存／第 83 条：電磁的な手続

児童発達支援ガイドライン（2024 年 7 月）

第 3 章：支援の内容／第 4 章：個別支援計画の作成と支援

こどもの意思の尊重・最善の利益の優先考慮の手引き

意思の形成・表出を支える工夫と、支援への反映

堺市 指定障害児通所支援事業者等に対する運営指導について

2026 年 4 月 1 日更新：利用契約後の計画作成手順、支援時間等

資料確認日 2026 年 10 月 4 日。本書は、はまなす行政書士事務所の独自制作教材です。物語、文例、図解、挿絵は学習用に制作しました。参照資料の趣旨を踏まえた作成方法の提案と、制度上の手続を区分しています。運用時は最新の通知と指定権者の取扱いを照合します。